

アカゲラ通信

2016年9月号
(公財)札幌市公園緑化協会 旭山記念公園管理事務所



レストハウス営業中

旭山記念公園レストハウスは 10 時～17 時まで営業しております。
コーヒー、焼きそば、フライドポテト、肉まん、唐揚げ串、クッキー、
ソフトクリームなどをご用意してみなさまのお越しをお待ちしております。



生き物は完璧ではない

人間はもちろん、生き物は完璧ではありません。

完璧ではないからこそ、生き物は発展し栄えているともいえます。

■帰る川を間違えたサケ

サケは自分が生まれた川＝母川に産卵のために戻ってきてその生涯を終えます。

嗅覚を頼りに母川に戻ると言われていますが、すべての個体が母川に戻るわけではなく、中には別の川に遡上し産卵するものも出てきます。

「間違い」、確かにそうですが、それにより種としてのサケが救われることもあるのです。

例えば母川が火山の噴火によりせき止められて遡上できなくなったり、洪水などの氾濫で産卵に適さないほど荒れたり、何かの理由でサケの卵を食べる外敵が増えて卵が食べ尽くされたりするかもしれません。

もし一本の母川に依存していた場合、こうした環境の変化により種が絶滅する可能性が高くなります。

そうなると、他の川で産卵したことが有意義になってきます。

また、新たに行った川が元の母川より環境がよく、そちらでより繁栄することも考えられます。

■鳥のさえずり

先月号で鳥の「さえずり」の話をしましたが、雄の「さえずり」は種により音色やリズム、旋律などが決まっていて、「ラヴソング」としての意味においては同じ種の鳥しか反応しません(先月号ご参照ください)。

著しく音程が外れたり違うリズムで囁くなどの「変な歌」を歌う雄は雌に見向きもされません。

しかし時にはその「変な歌」を歌う雄に雌が心を動かされ、他の雄よりも多くの雌が集まり、その雄がより多くの子孫を設け、やがては「変な歌」を歌う「新種」に発展する、という可能性もあります。

非常に低い確率ですが、でも何百万年もの間にそのようなことが何度か起こった結果が、今わたしたちが接している鳥たちの「種の違い」として現れているのです。

■エゾリスが森を作る

最後はもっと身近な「間違い」の話。

エゾリスがミズナラのどんぐりやオニグルミなど木の実を地面に埋めて冬の間に掘り出して食べることはよく知られています。

しかしエゾリスもそのすべてを完璧に覚えているわけではないし、埋めた場所の雪が想定外に多かったり倒木に覆われるなどで木の実が掘り出されずに残ってしまうこともあります。

そして残った木の実が発芽し、新たな樹木が育つことにより、森林が更新されてゆくのです。

森にとってはエゾリスがよりたくさん「忘れて」くれる方がありがたいかもしれないですね。



完璧ではないがゆえに先につながってゆくことがあるのが生き物の素晴らしいところではないでしょうか。

「旭山森のフェスティバル 2016」行います（予告）

10月の旭山といえば「旭山森のフェスティバル」、今年も行います。

自然観察会(詳細未定)、自然素材のクラフト、森の遊び場等、今年も秋の1日を森で楽しみましょう！

★「旭山森のフェスティバル 2016」 2016年10月10日(月・祝) 9時半～15時頃まで

参加費:大人 200円・小中学生 100円・未就学児無料(保険代、クラフト材料費等として)

●豚汁 1杯 100円(ご希望の方は申込時にお申し付けください)

今年はミズナラのどんぐりが豊作、しかし・・・

昨年まで2年連続ほとんど実がならなかつたミズナラのどんぐり、
今年はどうやらたくさんなりそうです。

しかし、8月末の台風10号の影響で、まだ青いままでのどんぐりが
たくさん落ちてしましました(右写真、2016年9月2日撮影)。

今後、森の生き物たちにも影響が及ぶかも知れません。

とはいえたくさん木についていて、この秋はどんぐり拾いができるそうです。



キビタキとヤブサメはいつまでいるか？

8月を過ぎると夏鳥たちは次々と南に渡って行きます。

旭山では毎年、夏鳥のセンダイムシクイがいつまで見られるか注目しています。

今年は8月19日が最後、お盆を過ぎた8月中ということで平年通りでした。

9月はキビタキとヤブサメがいつまで見られるかに着目してみます。

キビタキは雄成鳥はすぐ分かりますが、雌は地味な色合いでです。

あまり声を発しないので、たまたま見られたということが多いですが、
それでも気をつけていると目にすることがあります。

ヤブサメは笹の中で「ジュジュ」と鳴きながら移動するので、
その音を頼りにすれば意外と見つけられます。

キビタキは9月中旬、ヤブサメは下旬まで滞在しています。

キビタキ(上)
9月2日撮影

ヤブサメ(下)
9月1日撮影



「早朝野鳥観察会」と「定例自然観察会」次回の日時

★「早朝野鳥観察会」2016年10月1日(土) 7時～9時頃まで

参加費 100円(保険代) 定員:15名(先着順) ※見られる鳥:カケス、アオジ、ウグイス、アカゲラ等

★「定例自然観察会」2016年9月24日(土) 9時半～11時半頃まで

参加費 100円(保険代) 定員:15名(先着順) ※エゾノコンギク(花)、ツリバナ(実)等

※双眼鏡貸し出します(無料)。数に限りがあるのでご希望の方は参加申込時にお申し付けください。

※この時期はまだダニがいる可能性があるので肌の露出が少ない服装でお越しください。

(笹藪の中には入りませんが笹のある場所に行くので用心のために)。

写真で見る旭山ミニ博物誌



シマヘビ (ナミヘビ科)
縞が入った普通タイプ。「森の家」
前の薪にいました。毒はないです
がややどう猛なヘビです。



ツルリンドウ (リンドウ科)
昨年まで花を確認できていませ
んでいたが今年は咲きました。

旭山で
見られる
動植物を
写真で
紹介する
連載
コーナー



ナツアカネ (トンボ科)
顔が赤いのが特徴。ごく少ないも
のの今年も旭山で確認しました。



ルリボシヤンマ (ヤンマ科)
自分の縄張り内を旋回飛行し、
時々こうしてホバリングします。

編集 後記

9月になると山から降りてくるカケス(亜種ミヤマカケス)。

昨年は9月1日早々に見られましたが、今年はいつやって来るでしょうか？

カケスをこの秋初めて見られた方、ぜひ「森の家」にご一報ください。

カケスが来ると旭山の森も賑やかになりますよ。



公式サイト

「アカゲラ通信」 第34号 2016(平成28)年9月3日発行

発行:(公財) 札幌市公園緑化協会 旭山記念公園管理事務所

住所:〒064-0943 北海道札幌市中央区界川4丁目

連絡先:電話 011-200-0311(土・日・祝日 10時～16時) FAX 011-200-0351

<http://www.sapporo-park.or.jp/asahiyama/>